

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL<0762>52-2271 FAX52-2273

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL<0762>22-2525 FAX24-2882

会長：木島光仁 幹事：高畠菊丸

情報委員長：吉田富士夫

1989・3月9日 第385号

「金沢の活性化を考える」



金沢大学助教授 佐々木 雅幸 氏

最近、活性化と云う言葉が流行りますが、どこも同じプログラムを揚げると、金太郎飴のように、活性化の凹凸だけになります。大切なのは、当の自治体が21世紀への移行期に、国際化が進む日本の中で、どんな特長を持っているかを明確にせず、同じことばかりやれば、結局、北海道の博覧会のように大損をして、活性化したのは、東京のシンクタンクと、広告代理店だけだったと云うことになりかねません。

金沢のアイデンティティを考える時、内外でよく「1周遅れのトップランナー」と言う表現がされます。その、遅れてもトップランナーである意味が、何かを考えてみます。これは、短かい高度成長の期間に、社会の価値観が大きく変り、経済の量的側面から見て金沢が遅れた。しかし全国の他の地域が失ったもの、ゆとり、文化性、自然、景観ではひけをとらぬと言った自負があるからです。

現在はポスト高度成長、ポスト工業化社会になっている。戦後をリードしたアメリカ社会がスローダウンして、国際的にも日本の果す役割が大きくなりました。成長だけでは軋轢が起り、生産から消費へ、心の豊かさを求める、成熟時代への価値観を、強く迫られているわけです。その成熟への価値観が進むほど、1周遅れではなく、真のトップランナーになり得るのが、この金沢ではないかと思います。

今、東京はワールドシティとして、ニューヨークを凌ぐ世界の東京ですが、江戸の良さを失う中で、無国籍都市になった。これが成熟社会の代表であるはずがありません。成熟都市の指標としては、①生産 ②消費 ③豊かな自然環境 ④地域の歴史性 ⑤地域の文化性のトータルなバランスが必要だからですが、金沢はそれらが十分に備った都市です。

世紀の代り目に入って、テクノロジーの飛躍的な発展で、ハイテク、ハイタッチの時代になりました。この時代こそ、豊かな感性の人材が必要になります。経済面で客観的な分析をしない人は、百万石文化で食ってるとか、繊維産業の現場機能しかない町とか言いましたが、臨海工業地も、企業城下町でもなく、大企業がやれない隙間市場を埋める企業が多いことは、他県の都市に例がありません。

重厚長大から軽薄短小へ、物的生産から知的生産へ、ハードからソフトへ、マキシムからメディアムへと、企業も都市の規模も、適応能力、転換能力に勝れた、ハイテク時代の可能性を持った町であると思ひます。

近年、ハイテク労働で、精神的に疲れた人を、高度な心のゆとりで癒すことが出来る町として、ソフトウェア関連の工場が、金沢の周辺に集積しはじめています。

東京一極集中の問題が出ています。これは先進国には全くみられない。むしろ都市問題の国際会議などで、途上国に共通する話題です。メディアな都市こそ、生産、消費、文化、環境のバランスがとれますが、企業の場合もフレキシブルなものになっています。その意味でも金沢は魅力のある町と言えますが、欧米の場合をみても、金沢経済は念頭において参考にすべきところがあります。

イタリアのフィレンツェやボローニャは人口も金沢サイズです。光と影が織りなす歴史的景観と共生的に中小企業区があります。職人企業と呼んでいるデザイン経済が、イタリアの成長を支えてきました。感性で世界と勝負をしています。それを育てるのが、歴史的な都市の文化です。ドイツも国土機能の分散政策を徹底させ、ミュンヘンはシリコンババリアと呼ばれるソフトウェア都市になりました。東京とは反対の方向です。

今後の金沢が、どんな可能性と課題を持っているか、私見をお話してみました。

(文責 吉田富士夫)

私の名刺

松田 忠秋



このたび、小学校以来の友人である渡邊聰様、高校の同期ということでご交誼を頂いている佃一成様のご尽力により、名誉ある金沢北ロータリークラブに入会のお許しを頂きました。まことに光栄に存じます。心からお礼申し上げます。

私は、昭和14年生れで、崎浦小、紫錦台中、董台高、金沢大工学部と、ずっと小立野台地の上だけで成長いたしました。37年大学卒業と同時に上京し、48年暮まで東芝府中に勤務してUターン、59年から現在の仕事をさせて頂いております。約10年半ずつ、2つの会社の企業内エンジニアとして働き、その後、弁理士として再スタートさせて頂いたことになります。

弁理士は、全国で約3000名おりますが、その7割が東京に集中しているため、県内には僅か6名が在住しているに過ぎません。弁理士の仕事は、各企業や個人からの特許、商標等の出願の代理業務が中心となりますが、ときとして、これらに関する外国事件、訴訟事件に携わることもございます。

特許等の権利は、一般に工業所有権と総称され、これに著作権を加えて知的所有権と称しておりますが、主として弁理士が取扱うこれらの権利を取巻く環境は、いま急激な変動の中にあり、新聞テレビ等にも、この種のニュースが頻繁に報道されるようになってまいりました。また、我国と諸外国との間のトラブルも少なくなく、その調整を図るために、殆ど毎年のように、関連法令や条約の改正が行なわれております。

特許等の出願件数の多寡は、その地域における産業の活性度を示すバロメータであるといわれています。一方、地方の時代といわれて久しいにも拘らず、我が石川県における出願件数は、全国レベルから見ると、まだまだ極めて低い水準に留まっているといわざるを得ません。そこで、私ども地方在住の弁理士は、単に依頼された仕事を消化して行くのみならず、地域の産業の発展に貢献すべく、広く積極的に活動して行く責務があると思われれます。

このような点からしましても、人間形成を目指す継続的な研鑽の必要性を痛感しておりました所、いま、お陰様でまたとない勉強の場を頂きました。このことに心から感謝し、できる限りの努力を致す所存でございます。

どうぞよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。 ありがとうございました。

「我が社の紹介」 — おかげさまで160周年 —

医薬品卸 株式会社 中栄草栄堂
浅田 禎 男

お得意先、地元関係皆様様の永年にわたる温かいご支持、ご声援のおかげを持ちまして文政12年（1829年）創業の当社は平成と元号改まり、金沢市が市政 100周年を迎える本年4月1日創業160周年を迎えます。160周年を迎えるに当たり、社員一同地元の皆様の健康に関わりあいの深い医薬品を取り扱う私どもの重大な使命に思いをいたし、「より皆様に信頼されより皆様のお役に立つナカエづくり」を目指してひたむきに歩みつづけて参る覚悟を新たにいたしております。

当社の沿革

文政12年（1829） 初代中栄仁助 田中町で薬草の取り扱いを始める
明治3年（1870） 免許を得て中栄草栄堂の屋号で和漢薬の営業を始める
明治30年（1897） 下近江町に進出、合名会社に組織替え
昭和11年（1936） 株式会社中栄草栄堂設立（資本金25万） 初代社長 三代目中栄二助
昭和43年（1968） 現在地 神宮寺3丁目に新築移転
現状 年商 113億（平成元年3月末見込）社員 172名 資本金46百万

なお中栄草栄堂は、明治37年（近江町大火）昭和2年4月（彦三の大火）昭和21年4月昭和34年3月と、度々火災に合い過去の資料が乏しいのは誠に残念です。

「ナカエのひろば」……これは、私どもの社内新聞のよび名であります。すべて手づくり、夫々の手がきをそのまま編集して毎月1日必着で社員の家庭に郵送し、家族のありのままの様子や家族の声も紙面をにぎわしながら号を重ねて本年3月 100号を発行いたしました。誠に泥くさい新聞ではありますが、却ってナカエらしさのにじみ出た家族ぐるみの「ほのぼのコミュニケーション」として毎月発行が楽しみにされています。この新聞が62年1月「ナカエのひろば」として装い新たに再出発した頃の記事を一部転載させて頂きました。「ナカエのひろば」という名前に託した社員一同の心意気のようなもの、お汲み取り頂ければ幸甚でございます。

ナカエのひろば

- 中栄草栄堂は限りなく開かれたひろば、明るいひろば、そしてしかも厳しいひろばを目指して前進しつづけます。
- 開かれたひろばには「おおやけの（公共）ひろば」即ち「地元の皆様のお役に立つひろば」への祈りをこめています。開かれたひろばは、社内は勿論社外の皆様方に対してもコミュニケーションのよいひろばです。ナカエの進むべき方向を全員が充分理解して、お互いが思っていることを遠慮なく主張し合え、耳を傾け合えるひろばです。
- 明るくてしかも厳しいひろばとは、ナカエの使命と日々の前進・充実にはこり・やりがいをもたらしながら、ひとりひとりがより高い目標に向って「助け合い、励まし合い」そして「はげしく競い合い」つつ、ねばり強く挑戦しつづけるひろばです。



最後になりましたが、大場松魚先生の格別のご厚意により平成元年新春書花茶展に特別出品されました「円光」を拝借させて頂き、160周年記念テレホンカードを作成いたしました。

社員一同、何よりの記念品と大変喜んでおります。紙上を借りまして大場先生に心より御礼申しあげます。

第769回例会 夜間例会

◆ 2月23日(木) 18:30~20:30 松魚亭



1. 講話

北陸体力科学研究所
研究部長 碓井外幸氏
「現代における健康、体力
作りの為のポイント」

2. 出欠

出席47名 欠席30名
出席率61.04%
ビジター1名
立山RC 岩井改二君

3. 来訪者(昼受付、敬称略)

富山中RC 須賀 正(眼鏡卸)
富山南RC 道島一男(シニアアクチブ)
小松東RC 山腰 茂(弁護士)
金沢RC 丸 惠三、坂尻哲夫

岡田虎二、野沢 清、西永掃部
武内宏允、加藤 晃、竹内外茂
秋山 等、磯野 優、織田 廣
岡田尚状、西 弘光、東 栄治
金沢東RC 石動隆信、中川 衛
金井 洋、越原哲郎、南 昭武
彦田昭雄

金沢西RC 駒谷良雲、若松明夫
中村吉輝、太田辰巳、新村利夫

金沢南RC 松井正作、湯沢邦夫
松本 要、高木 信

香林坊RC 向田好太郎、橋原龍一
石田信也

4. 幹事報告○立山RC 認証状伝達式

1989年4月16日(日)
立山町民会館大ホール

5. ニコニコボックス

- 長男の高校が決まりました。 早稲田 健一
- メーキャップが続きました。 関 稔
合計 5,000円 (累計 1,619,100円)

6. 今週のニュース

- 2月24日昭和天皇の大葬、世界各国163カ国から弔問来日、新宿御苑で「大喪の礼」、武蔵御陵で「隋陵の儀」。
- ホノルル離陸の米ジャンボ機胴体に穴、乗客9人機外へ。
- 自民党宮城県連、独自候補断念、異例の自主投票。

第770回例会

◆ 3月2日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭



1. 講話

金沢美術クラブ監査役
高辻秀時氏
「古美術の沿革及び種類」

2. 出欠

出席55名 欠席22名
出席率71.43%
ビジター43名

3. 来訪者(敬称略)

金沢RC 坪野俊雄
神 亮一、村井健吾
北元喜雄、加藤 晃、本田八郎
二木治夫、永山憲三、武内宏允

小坂栄治、高田和征、織田義夫
青木清人、丸 惠三、村上稱美
針谷孝雄

金沢東RC 中川 衛、三田裕一
室谷与三松、岡本次男、宮崎逸夫
彦田昭雄、紙谷 稜、長田 稔
越原哲郎、厚見益樹、野村 清
河野外代治、示村 均、奥村宜夫
小泉重紀、今井喜与人、田村新次
浅倉道敏、藤原興夫、中橋秀夫

金沢西RC 高島雄二、辻 卓
高田清郷、成瀬 巖

金沢南RC 山本 茂、沖野大作
香林坊RC 成瀬栄蔵

4. 幹事報告○高岡由美さん(1989~90交換学生)ご挨拶。

- 交換学生ダグラス君、トレーシーさんおこづかい。
- 朴さん米山奨学金。

5. 御誕生日祝(敬称略)

2日 小杉善嗣	
3日 中村三次	
11日 山上啓介	
15日 大場勝雄	21日 本江他美夫
15日 坂下直人	25日 畠 善昭

6. 御結婚記念日祝(敬称略)

2日 小杉 善嗣	20日 市川則人
3日 岩倉舟伊智	20日 鈴木 透
4日 滝 憲 三	25日 村田完二
6日 小間井宏尚	29日 佃 一成
6日 松田 忠秋	30日 畠 善昭
7日 上田 忠信	31日 卯野正博
11日 小杉 守男	
11日 米沢 真二	

7. ニコニコボックス

- 本日娘がお世話になりまして、ありがとうございます。 高岡 昇
- 明日から開かれます金沢市工芸展に受賞致しました。 二塚長生
- 先月からニコニコボックスを出す事を探してましたらやっとありました。結婚して?年目4月から新婚に戻ります。二人になります。 小間井宏尚
- お蔭様で忘れていた結婚の月を思い出しました。 鈴木 透
- 結婚記念日のお祝い有難うございます。何回目だったか指折り数えております。 上田忠信
- 結婚祝カードをいただきました。 卯野正博、市川則人、滝 憲三 米沢真二

- 明日誕生日を迎えます。 中村三次
- 楽しいお誕生月になりました。ありがとうございました。 坂下直人
合計26,000円 (累計 1,645,100円)

8. 今週のニュース

- 中曽根前首相リクルート疑惑を否定。証人喚問は拒否。
- ラオスで三井物産所長をら致、タイ領へ連行。
- 石川製作所、韓国企業に技術供与。織機の国産化に協力。